

4/15.5.7(水) 朝日

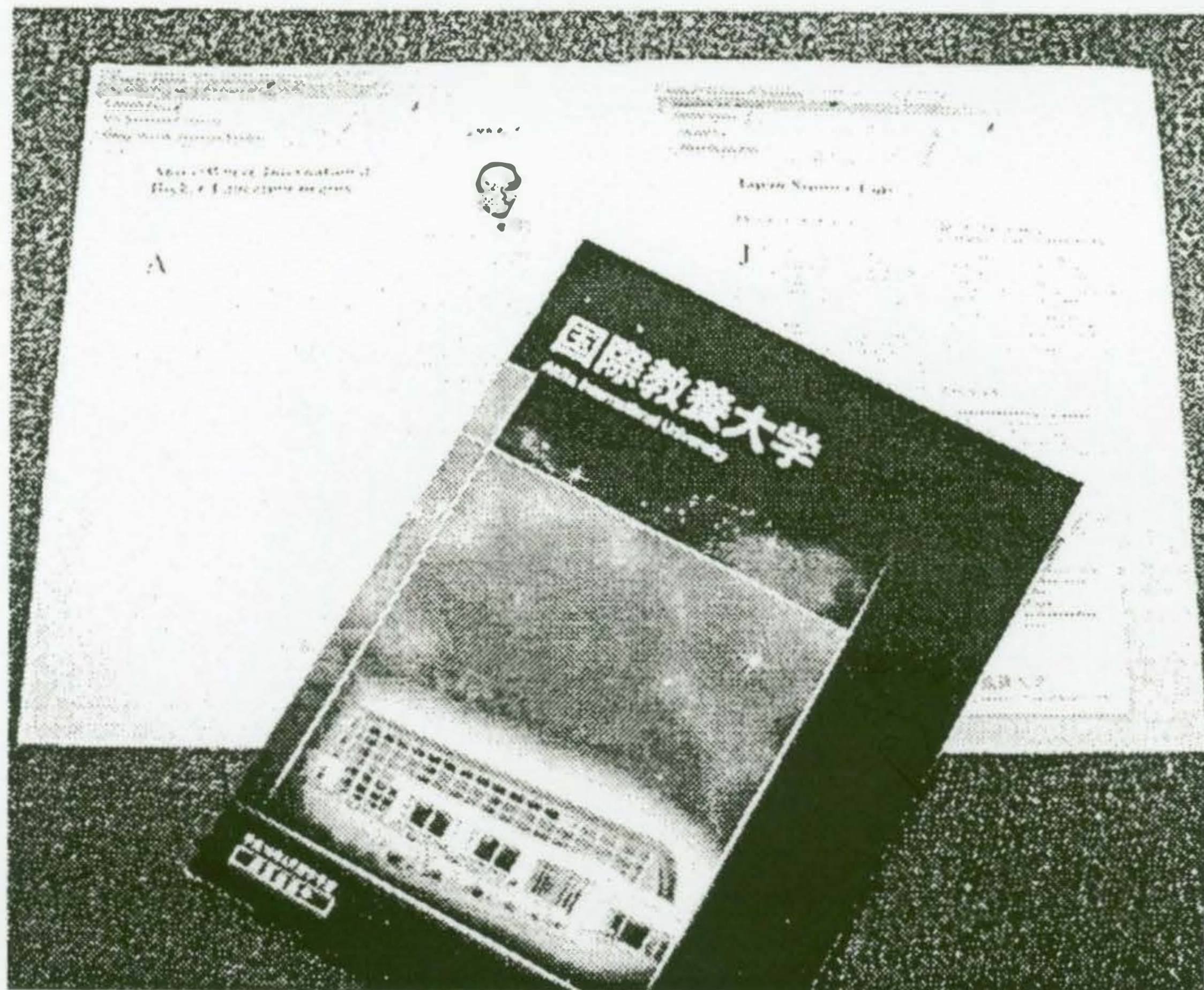
国際教養大 曲折へて認可申請

受験生確保に全力

構想から4年

進学専門員に元高校長 3人を配置 県内外訪問

構想から約4年。県は4月28日、自民党の反対などで曲折を経た国際教養大学の設置認可を文部科学省へ申請した。04年春の開学まで1年を切り、県は今後、県内外の高校訪問したり受験生確保に全力をあげる。



国際教養大学PRのために作られた日本語と英語のパンフレット

「選挙よりエネルギーがかかった」。認可申請に際し、寺田典城知事はこれまでの道のりを振り返り、「思ったとおり、理想のとおり進んでいる」と満足げに話した。

同大構想は99年5月、寺田知事が、経常難が続いたミネソタ州立大学秋田校について「大学資格のない専門学校の制度のままでもいいのか」と発言したのを機に、模索が始まった。申請書類の設置理由には、寺田知事が繰り返してきた「国際社会で活躍できる実践力を備えた人材の育成」が掲げられた。

◆自民の反対

同大構想は県議会の対立の火種になってきた。最大会派で野党の自民党は当初から、議会で「ミネソタありきの構想だ」などと反対の姿勢をとってきた。

01年の2月県議会で自民党が反対し、構想が一時、暗礁に乗り上げた。当初目標にしていた03年4月の開学には、創設準備費6300万円を盛り込んだ予算案が、県議会に提出された。

り込んだ予算案の可決が不可欠だった。寺田知事は「ひきをつけてでもお願いするしかない」と臨んだが、3月の採決で自民党は反対。予算は減額修正され、03年開学が消えた。自民党は「うまく成り立つと考えるのは幻想にすぎない」とし、寺田知事は「夢を持てると思ったが」と語った。しかし、寺田知事はその後大学の必要性を強調し、04年開学を目指した。02年1月の臨時県議会に再び大学関連費728万円を提案。自民党は反対したが、同党から分離した自民党新生会（現新生会）が賛成に回ったことで、可決され、開学に向けて動き出した。自民党は同大問題で少

◆骨格の変遷

99年9月、初めて県議会に示された「国際系の4年制大学」は、ミネソタ州立大学機構との提携を視野に入れた県立大学の1学部という位置づけだった。しかし、00年10月、外部の検討会が柔軟な体制をとるべきだ」とした意見を踏まえ、独立した単科大学に変えた。また、県が当初示した案は「国際ビジネス」と「北東アジア」の2学科構成で定員は200人だった。

◆PR本格化

県は認可申請を機に、雑誌や新聞広告など受験生へのPRを本格化させている。パンフレットはすでに日本語版3万5千部、英語版3200部を作った。日本語版は県内の高校1、2年生全員に配布。今年度、国際教養大学設置準備事務局には、進学企画専門員として元高校長3人を配置した。専門員は説明に県内の全高校を回るほか、夏までに事務局員と県外の高校180校に出向く。

大学の概要・特色



【認可申請で示された大学の概要と特色】

1学部2課程制 国際教養学部の中に、米国のビジネス・スクールをモデルに国際ビジネスなどを中心に学ぶ「グローバル・ビジネス」と、米国や中国の地域研究、国際関係を学ぶ「グローバル・スタディーズ」の2課程を置く。

学生選抜 定員は100人で、学部で一括に募集し3年次に専門課程を選択する。入学試験は、前期（60人）、後期（10人）に分け、TOEFLなど外部の英語試験を活用するほか、個別学力試験、小論文、面接を実施。開学2年目からは5

教科5科目のセンター試験を課す。ほかに推薦や帰国子女入試も行う。学生は1年以上の海外留学 国際的視野を身に付けることが目的。米国メトロポリタン州立大、ウィノナ州立大、中国吉林大、南開大がすでに提携大学に決まっている。セメスター制 海外留学や帰国子女受け入れを円滑にするため。半年を1学期とし、各授業科目を学期ごとに完結させ、集中的で効率的な受講が可能になる。将来的には9月入学も実施。

教員の過半数が外国人 国際社会で通用する実践力を備えた人材を養成するため。昨年11月に開

始した公募には44カ国から延べ567人が応募。公募以外を含め9カ国42人の専任教員が内定している。

教員任期制 教員の質の維持、向上が目的。任期は3年とし、内外の評価を基礎にして、よい教員を確保する一方、問題がある教員の契約更新はしない。

寺田知事は「大学が淘汰されていく時代。今だから新しい大学を作るべきだ」と強調する。「（学生は）来ると思う。（国際教養大は）ものすごい魅力じゃないでしょうか」と期待した。今年末には設置認可される見通しだ。さらに開学時には、公立大で初めてとなる県から独立した法人化を目指す。

- 国際教養大学 設置認可申請までの経緯
- 90年5月15日 ミネソタ州立大学秋田校開学。初年度は定員を超す259人が入学したが、翌年度から定員割れ、半数近い退学者を出し、赤字に苦しむ
 - 99年5月10日 寺田典城知事が多額の累積赤字を抱える同校について、日本の大学として整備する構想を示唆
 - 7月 ミネソタ州立大学機構に県が「4年制大学の可能性を探りたい」と提案
 - 9月3日 国際系の4年制大学の設立構想を県議会各派に内示。自民党県議からは「何を描いているのか見えない」などと批判が相次ぐ
 - 24日 県が国際系大学の設置形態を県立大の1学部として検討していると表明
 - 10月25日 寺田知事「03年の開学を目指す」と表明
 - 00年5月29日 同大学についての外部の検討委の初会合。研究より教育を重視することを確認
 - 9月11日 寺田知事、同大学の設置場所をミネソタ秋田校が「ベター」と発言
 - 11月15日 検討委が設置形態を県立大の1学部から「県立の単科大学」、設置場所を「ミネソタ秋田校」とする報告書を答申
 - 12月19日 国際系大学などを審議する県議会の特別委員会設置の動議が自民、公明両党の賛成で可決される
 - 01年3月7日 設置準備予算を一般会計から全額削除した修正案が自民党の賛成で可決される。構想が暗礁に乗り上げ、03年開学が絶望的に
 - 5月14日 寺田知事、「04年4月開学を目指す」と発言
 - 02年1月9日 自民党から独立した新生会が賛成にまわり、創設準備委の運営費が可決され、開学に向けて準備が具体化。自民党はその後、03年2月定例会までに4回、関連予算の減額修正案を提出したが、その都度否決され、原案が可決された
 - 3月25日 同大学設置費を含む予算案が、採決で自民党が退席し、可決される
 - 28日 創設準備委の初会合
 - 7月31日 同委、大学名を「The Global University in Akita (GUA)」とすることでいったん一致。その後、県民から否定的意見が相次ぎ、再考
 - 9月20日 学長予定者に、同委員長の中嶋嶺雄・前東京外国語大学学長が内定
 - 10月29日 大学説明会を県内高校で開始
 - 11月5日 大学名が「国際教養大学」に決定
 - 03年2月8日 ミネソタ秋田校で開校式。3月31日に開校
 - 3月7日 準備委で教員内定者を報告
 - 4月18日 学部名が「国際教養学部」に決定
 - 28日 文部科学省に設置認可申請